

石井まえばし

No 316号 毎月1日・15日発行

昭和35年7月14日
第3種郵便物認可

写真説明

【右上】市街中心部の国道集う
た人の波(郵便局屋上から)
【左上】聖火の引きつき(国領町
群大病院入口十字路中継点で)
【左中】赤城山を背景に、新市内
を走る聖火(関根町にて)
【左下】人出約一万といわれる
県庁付近で盛大な声援を受けて市
役所前を通過する聖火
【右下】最終ランナー八木原明君
君(左端)から聖火を受けとった
石井市長は、これを神田知事に渡
す(右端は市員教育長)

前橋まつり写真コンクール

締切日 十一月七日に変更
剪定お知らせした締切日
十月十七日であるのを十一
月七日に延期変更いたしま
す。



待ちかねた聖火 感激にわく市民

六日の朝八時二十分再び聖火台から移された聖火は、石井市長の手から当日の第一正走者森下修君の手に渡され、大観衆に見送られ八時二十五分県庁前を出発しました。

途中、石倉町において富沢克範君に、さらに本市最終ランナー石関公貴君と引き継がれ、八時四十六分無事高崎市に引き継がれました。

こうして市内二百七名の若人(わこうど)の手によって無事本市を通過した聖火は、前橋市民の温かい心と声援をこめて十日国立競技場の聖火台に点火され、永遠の平和を祈る灯として燃えつづけることでしょう。

この目ではっきりと見た世紀のオリンピック聖火、「これが聖火なのだ」と、瞬間おのれの心を静めることはできなかったであろう夕方五時半からの聖火を迎え、スポーツセンターにおいて「聖火を迎える夕べ」とともに本年度前橋市民スポーツ祭総開会式が開かれ、昼間の感激をここに再びあらたにいたしました。

十月五日、わたくしらは感激と興奮のうちに聖火を迎えた。

この日午後一時二十三分北橋村から引き継いだ聖火は、本市の第二正走者である星野久君の手にしっかりとにぎられ、副走者、随走者計二十三名によって力強くスタートした。

そして、関根町において第二正走者豊田憲二君に荒牧町では第三正走者の女屋貞夫君に、次いで上小出町において第四正走者金井正明君、国領町では第五正走者梅山章治君に、さらに五日の最終走者八木原明君の手に引き継がれ県庁前に設けられた聖火台へと運ばれました。

沿道には小学生、中学生はもとより二度と見られない聖火とあって、どっと繰り出した一般市民のうち振る日の丸の小旗と声援に元気づけられ午後二時五分、いまやおそしと待ちわびる大観衆の前にオレンジ色の美しい光と白煙をなびかせて正走者に捧げられた聖火の姿があらわれたとき緊張と感激……聖火台前に二十三人の若者たちが整列しおわって八木原君の捧げる聖火は、石井市長に無事引き継がれ、ついで神田知事に渡されました。

大群衆のどよめきが二瞬静けさにかえったとき、知事の手によって聖水セラに点火されました。

感激と興奮、関係者のあいさつも聞えない歓声、ここに遠くギリシヤから運ばれた聖火は、前橋の地に平和の光として輝いたのであります。

